

(参考情報) 韓国農林畜産食品部公表情報

農林畜産食品部プレスリリース (2017年3月6日15時00分付け) 口蹄疫・AI発生動向と防疫推進状況

出典URL:

http://www.maf.go.kr/list.jsp?&newsid=155449171§ion_id=b_sec_1&pageNo=1&year=2017&listcnt=10&board_kind=C&board_skin_id=C3&depth=1&division=B&group_id=3&menu_id=1125&reference=&parent_code=3&popup_yn=&tab_yn=N

(機械翻訳等に基づく仮訳)

1 全国における牛の口蹄疫ワクチン抗体形成率の検査結果

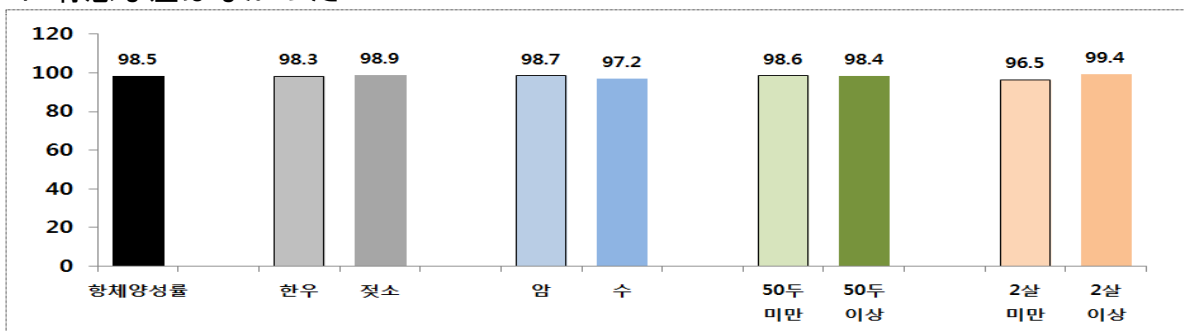
(目的) 全国における牛の口蹄疫ワクチン一斉接種(2月8日~2月14日)後の抗体形成率の推移などの正確な現状把握(一斉接種が正しく推進されたことの確認、ワクチン効果など)

(検査の概要) 全国9道の牛の飼育農場に対して、2月27日から3月3日まで450農場(肉用牛300、乳牛150)2,250頭(5頭/農場)を検査

- ◆(農場及び個体の選定) 客観性と代表制が確保されるよう、選定方式を改善
 - ▶畜種別(肉用牛:乳牛=2:1)、飼育規模別(牛50頭未満:50頭以上)、性別を総合的に考慮するよう改善
 - ▶検査対象牛は、畜産物履歴管理システムの検査対象個体を乱数表で事前に選定して検査

(検査結果) 全国における牛のワクチン抗体形成率検査の結果、平均98.5%を示し、ワクチンの有効性と牛の免疫レベルが向上したことを確認

○全国における検査の結果から、畜種・雌雄・年齢・飼養頭数別のワクチンの抗体形成率に有意な差はなかった



○ワクチン接種抗体（SP抗体）が基準値である80%に達していない2農場（京畿道、忠清南道）については、再接種の2週間後に確認検査を実施

○7農場8頭[忠清南道唐津市2（韓牛）、忠清南道礼山郡1（韓牛）、慶尚北道漆谷郡1（乳牛）、慶尚北道亀尾市2（韓牛）、慶尚北道軍威郡1（韓牛）]でNSP抗体が検出されたが、ウイルス（抗原）は、検出されていない

- 現行の口蹄疫緊急行動指針（SOP）及びNSP抗体検出農場管理要領に従い、当該農場の3週間の移動制限、追加確認検査、陽性畜淘汰、消毒などの防疫管理の推進

（NSP抗体検出農場のリスク評価）3月5日、口蹄疫の専門家会議を開催し、NSP抗体の検出農場では臨床症状やウイルスの検出が確認されず、抗体形成率（モニタリング調査）もほぼ100%のレベルを示したことから、ウイルス伝播の懸念はないと判断した

○ただし、全国において同じ条件で検査したにもかかわらず、慶尚北道亀尾市、忠清南道唐津市などの一部の地域でNSP抗体が検出されたことを考慮すると、徹底した予防措置として、その地域のための強化防疫措置を設ける

（NSP抗体検出農場に対する措置計画）NSP抗体検出農場における、既存の防疫措置以外の強化防疫措置の推進

区分	既存の措置	追加の強化措置
防疫措置	当該農場に対する3週間の移動制限、追加ワクチン接種、NSP陽性畜の早期淘汰、疫学調査、移動制限後3か月間の管理の推進	i) 検出農場の半径500m以内の全ての牛農場におけるNSP抗体一斉検査 ii) 500m～3km以内の牛農場については出荷ごとにと畜場でNSP抗体検査（～3月）

〈NSP (Non-structural protein) 非構造たん白質抗体〉：口蹄疫感染後10～12日経過後に、動物の体内に形成される抗体

*ただし、NSP抗体をもつ母から生まれた子でNSP抗体が出ることがあり、まれにワクチンの反復接種などによっても、血清の非特異反応によっても検出されることがある

〈これまでのNSP抗体の検出状況〉毎年検出されるが、口蹄疫が多く発生した年には、NSP抗体が多く検出されており、発生が少ない時期には、NSP抗体の検出も少なくなる傾向があり、今回の一斉接種後の検査では、他の年度に比べてNSP抗体の検出が少ない

区分	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
件数	30	38	177	180	10（平時3、一斉接種後検査7）

*2017年の検出（10件、牛）：京畿道1（金浦市1）、慶尚北道6（亀尾市3、漆谷郡1、軍威郡1、慶山市1）、忠清南道3（唐津市2、礼山郡1）

*過去の口蹄疫の発生：2014年～2015年 188件、2016年 21件、2017年 9件

※牛に続いて、順次、豚の抗体形成率の再確認検査の推進（3月20日～3月26日）

*全国の豚の繁殖農場（4,574農場、統計庁）のうち600農場を選定（10～13頭／農場）

2 口蹄疫の危機警報段階の下方調整、移動制限解除

（段階調整）家畜防疫審議会の議論結果をもとに、3月6日16時、危機段階を「深刻」から「警戒」段階に下方調整することとした。

i) これまでに強化された防疫措置*が効果を発揮し、ii) 2月13日、忠清北道報恩郡の発生を最後に、21日間追加発生がなく、iii) 全国における牛への一斉接種（2月8日～2月14日）**以降の抗体形成率が98.5%でワクチン効能と免疫水準の向上***が確認され、iv) 畜産業界の経済活動における不便の解消などの面を考慮し、危機警報段階を下方調整する。

*特別防疫措置：全国における家畜市場の閉鎖、農場間の家畜の移動禁止、発生地域（京畿道、忠清北道、全羅北道）からの偶蹄類の他の市・道への搬出禁止などの措置

**ワクチン接種：全国の牛（283万頭）、発生した報恩郡・井邑市と隣接する14の市・郡の豚・山羊・鹿（88万頭）、漣川郡内の豚・山羊・鹿（12万頭）

***全国における牛のワクチン抗体モニタリングの結果（2月27日～3月3日、450戸）、ワクチン抗体形成率は平均98.5%

<参考：（危機段階）：2017年2月5日（注意）→2月6日（警戒）→2月9日（深刻）→3月6日（警戒）>

関心	注意	警戒	深刻
周辺国で発生 (平時)	・疑似患畜発生 ・ワクチン接種畜で発生	隣接又は他の地域 への伝播時	多くの地域で発生 し、全国拡大が懸念 される時

○追加の危機段階調整（警戒→注意）は、追加で口蹄疫の発生がない場合は、豚の抗体形成率モニタリング調査（3月20日～3月26日）の結果を見て3月27日の週に決定する予定である。

（防疫区域の移動制限解除）3月3日に京畿道漣川郡、3月6日に全羅北道井邑市については移動制限を解除し、忠清北道報恩郡については3月10日頃に移動制限を解除する予定である。

※移動制限解除条件：管理・保護区域（3km）内における殺処分、消毒、緊急ワクチン接種終了後3週間発生がない場合は、精密検査を実施し、異常がなければ解除

参考 1

口蹄疫の危機警報段階による措置の違い

区分	注意段階	警告段階	深刻段階
派遣	農食品部 ○口蹄疫防疫対策本部（本部長：長官）と状況室（室長：畜産局長）	○口蹄疫防疫対策本部（本部長：長官）と状況室（室長：食品室長）	○中央事故収拾本部設置 または境界段階と同様 *必要に応じて中央災害安全対策本部の設置を提案（安全部） *関連省庁（機関）への派遣要請
	検疫本部 ○口蹄疫防疫状況室（室長：疾病管理部長）稼働	○口蹄疫防疫対策状況室（室長：検疫本部長）稼働	
	自治体 ○発生市・道（市・郡）は、口蹄疫防疫対策本部（本部長：機関長）と状況室を稼働	○全ての市・道（市・郡）で口蹄疫防疫対策本部（本部長：機関長）と状況室を稼働	○地域災害安全対策本部の設置、警戒段階と同様

区分	注意段階	警告段階	深刻段階
消毒施設	○発生農場と半径3km以内の主要道路に制御警戒所を設置 - 発生市・郡の主要な拠点に畜産車両担当消毒場所を設置	○発生市・道及び隣接市・道と主要道路に制御警戒所を設置 - 市・道（市・郡）の間の主要な拠点に畜産車両担当消毒場所を設置	○全国の主要道路に制御警戒所を設置 - 全ての市・道（市・郡）の間の主要な拠点に畜産車両担当消毒場所を設置
家畜市場	○（必要に応じて）発生市・郡及び隣接市・郡の家畜市場の閉鎖	○（必要に応じて）発生市・道及び隣接市・道の家畜市場の閉鎖	○全ての家畜市場の閉鎖
畜産集会	○発生市・郡及び隣接市・郡の畜産農場の集まり（イベント）の禁止	○発生市・道の畜産農場の集まりの禁止 ○全国の畜産農場の集まりの自粛	○全国の畜産農場の集まりの禁止（畜産関連団体長選挙延期など）
共通	○（農食品部）発生市・郡に中央初動対応チーム派遣、防疫措置示達 ○（検疫本部）発生市・郡に機動防疫機構と疫学調査班の派遣、精密検査など ○（自治体）追加のワクチン接種、殺処分（埋却）、移動制限、消毒など、現場の防疫措置		

*注意段階：ワクチンを接種している型の口蹄疫発生時

*警戒段階：ワクチンを接種している型の口蹄疫が隣接または他の地域などへ伝播した時

*深刻段階：ワクチンを接種している型の口蹄疫が多くの地域が発生（全国拡大の懸念）、ワクチンを接種していない型の発生時

3

口蹄疫の危機警報段階の下方調整後の追加防疫措置

（一斉清掃及び消毒）危機段階の下方調整及び全国における移動制限解除（報恩郡3月10日予定）以降に、清掃及び特別消毒キャンペーンを実施

○（現行）毎週水曜日に、全国一斉消毒の日を運営

○（強化）10日間、全国の偶蹄類の繁殖農場における清掃及び特別消毒を実施、その後は現行どおり毎週水曜日に全国一斉消毒を実施

△（一時）2017年3月11日～3月20日、10日間

△（主な内容）i）農場内外の整理整頓及び清掃、ii）畜舎内外の一斉消毒

△（推進方法）生産者団体*主催でキャンペーン**の実施及び広報

*韓牛協会、酪農肉牛協会、韓豚協会、鹿協会、山羊協会、黒山羊協会、ヤギミルク協会など

**キャンペーン参加垂れ幕、ホームページ公開、密集地域における町内放送など

（再導入管理強化）殺処分（部分埋却含む）農場の再導入要件を強化

（現行）移動制限解除後1週間以内に市・郡で点検（住宅・畜舎・搾乳場などの清掃・消毒の状態、発生時の飼料・稲わら・生ごみ等の汚染物が焼却・埋却されているかどうか）して異常がない場合は、点検日から30日後に導入可能

（強化）市・郡による点検後、検疫本部が追加で現場を確認（追加検査：実験室における精密検査などによる再導入適正、畜産法の許可基準である消毒・防疫施設の設置状況）して異常がない場合は、点検日から30日後に導入可能

（家畜市場の消毒）再開時に、家畜市場の消毒管理について徹底措置

△（開場前）広域防疫車などの動員、周辺道路や内部施設の消毒

△（開場中）出入口固定式消毒施設に加えて、高圧噴霧器での車両の車輪、車体に付着した汚れの除去及び消毒

△（開場後）家畜市場の周辺道路や家畜市場内の汚染物質（糞便など）を除去後、集中消毒

4 AI発生動向及び防疫推進状況

（発生動向）2月6日から3月4日までに16件（H5亜型を検出、検査中の3件を含む）が発生したのに続いて、3月5日、全羅北道高敞郡（肉用あひる）では、出荷前の検査で、全羅南道康津郡（肉用あひる）では、疑い事例の申告によってAIが検出され、強化防疫措置を推進

※2月以降に発生した18件（肉用あひる9、採卵鶏4、種あひる・ブロイラー・肉用種鶏・地鶏2）のうちH5N6亜型2件、H5N8亜型12件、H5検査中4件

（防疫措置）全羅北道高敞郡では2月6日以降発生した5件のうち系列会社が4件であり、全羅南道康津郡では2件の発生がすべて系列会社であることなどを勘案すると、水平伝播の懸念が大きく、現行の緊急行動指針（SOP）より強化された防疫措置が必要

△ 世界的にも生世界的にもAIが2016年に49か国1,089件、2017年3月4日時点で42か国1,043件発生しており、今年2か月間での発生件数が前年の総発生件数と同等であり、短期間で発生が急増

△ 特に、国内で発生中のH5N8亜型は、2016年に25か国672件、2017年3月4日時点で32か国867件発生しており、今年2か月間での発生件数が前年の総発生件数よりも29%も増加しており、緊迫した状況にある

○全羅北道高敞郡及び全羅南道康津郡では3km以内の全ての家きん、3～10km以内のあひるについて、早期出荷又は予防的殺処分を実施するよう措置

○万一の事態に備えて、先制的に上記系列化事業者の全国系列化所属農場（457戸）の鶏は、臨床検査（異常時は精密検査）、あひるは臨床・精密検査を並行して実施して、AIの拡大防止及び迅速な対応を推進

〈発生地域における対策〉

防疫区域	現行のSOP	現行のSOPより強化された措置 （深刻段階となった12月16日から適用）	追加の強化措置 （3月5日高敞郡・康津郡発生）
500m	発生農場における殺処分 リスクを勘案した予防的殺処分	全てについて予防的殺処分	同左
500m～ 3km	リスクを勘案した予防的殺処分（検査本部＋農食品部による協議）	積極的な予防的殺処分	すべての農家の予防殺処分または早期出荷
3km～ 10km	電話予察	（鶏・あひる）臨床・精密検査	（鶏・あひる）臨床・精密検査 （あひる）早期出荷又は予防的殺処分
その他の地域	-	-	発生農場の関連会社・所属農場全体の予察 -（鶏）臨床検査、異常時には精密検査 -（あひる）臨床・精密検査

*（高敞郡の発生農場関連）全国241戸、（康津郡の発生農場関連）全国216戸の系列農場全体の検査

※（春祭り）最近AIが発生した地域（47市・郡）及びビッグデータ分析の結果危険区域と判断された区域（61市・郡）については、自治体に対し、大規模なイベント・祭りの自粛

を要求（3月5日）

参考 2

海外におけるAI発生状況（3月4日OIE報告に基づく）

2017年の発生：全42か国、1,043件発生（H5N8 33か国867件）

区分	H5	H5N1	H5N6	H5N8	その他	計
国（数）*	6	10	4	32	8	42
発生（件数）	68	55	16	867	37	1,043

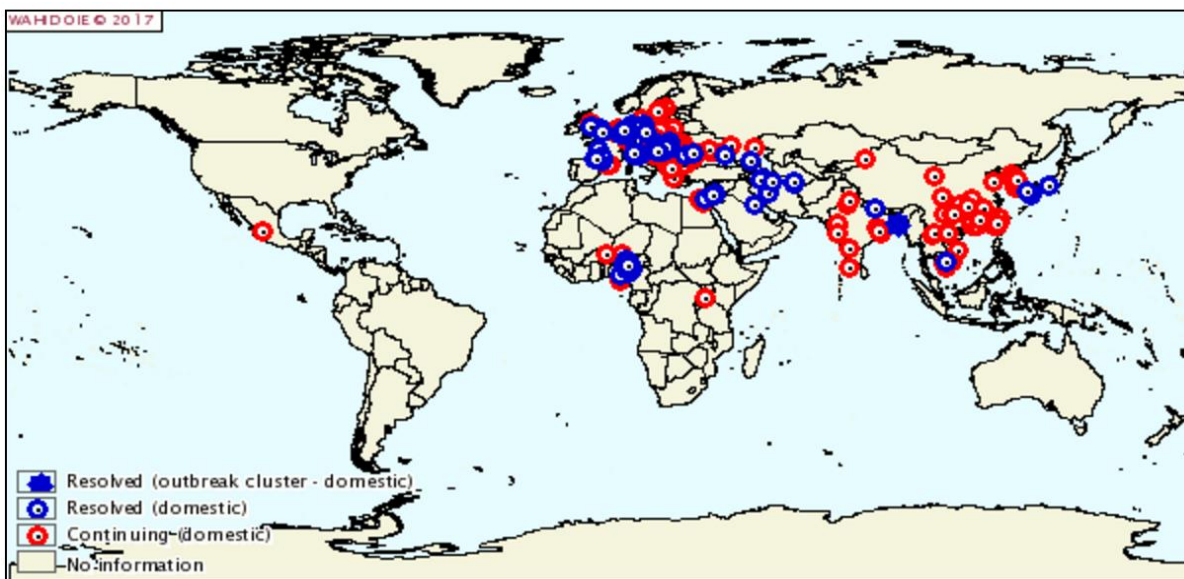
2016年の発生：全49か国、1,089件発生（H5N8 25か国672件）

区分	H5	H5N1	H5N6	H5N8	その他	計
国（数）	9	16	6	25	11	49
発生（件数）	38	280	27	672	72	1,089

*国（数）には、H5N1、H5N8などの重複発生を含む

【2017年AI発生国】

〈農場での発生〉 H5（ロシア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ウガンダ、ブルガリア）、H5N1（ナイジェリア、バングラデシュ、ベトナム、インド、カンボジア、ニジェール、ネパール）、H5N2（台湾）、H5N5（ギリシャ、ドイツ）、H5N6（台湾、ベトナム、日本、中国、ギリシャ）、H5N8（ギリシャ、ナイジェリア、台湾、ドイツ、ルーマニア、マケドニア、スウェーデン、スロバキア、イギリス、ウクライナ、イラン、イスラエル、イタリア、チェコ共和国、カメルーン、クロアチア、ポーランド、フランス、ブルガリア、ハンガリー、スペイン、セルビア）、H7N9（中国）



〈野鳥での検出〉 H5（マケドニア、ウガンダ、カザフスタン、ブルガリア、ロシア）、H5N1（ルーマニア、バングラデシュ、スロベニア、クロアチア）、H5N5（ギリシャ、ドイツ、チェコ共和国、ポーランド、セルビア、スロベニア）、H5N6（台湾）、H5N8（ギリシャ、オランダ、デンマーク、ドイツ、ベルギー、セルビア、スウェーデン、

スイス、スペイン、スロバキア、スロベニア、アイルランド、イギリス、ウクライナ、イラン、イスラエル、イタリア、中国、チェコ共和国、クロアチア、ポルトガル、ポーランド、フランス、フィンランド、ルーマニア、リトアニア、ハンガリー

5 AI拡大防止のための予防的買取の推進

（背景）防疫区域における移動制限によるタイムリーな出荷の困難、鶏肉の流通禁止による地鶏の販売困難、最近論山市などで出荷日齢を超えた農場でAIが発生した状況などを総合的に考慮し、先制的な予防的買取を拡大して推進

○予防的殺処分と先制的買取を並行することで、いくつかの困難な要因の最小化及び費用の削減、需給調整の容易化など多目的な効果を期待

区分	殺処分		埋却		今後の需給調節手段	費用面（推定）
	費用	人員	環境	管理		
予防的殺処分	人員/機材投入	人への感染モニタリング	埋却地の確保が必要	事後管理、追加人員	×	458百万ウォン
専制的買取	×	×	×	×	備蓄後に活用	248百万ウォン

*あひる5万羽基準：予防的殺処分（458百万ウォン）⇒殺処分補償金+生計安定資金（363）、埋却費/埋却管理（95）、買取（248百万ウォン）⇒購入費（360）、と殺費・急冷・保管費（68）、販売収入（△180、買取価格の50%水準と仮定）

（買取対象・条件）鶏のブロイラー及び肉用あひるに拡大し、買取条件も改善して拡大・施行するよう措置

○地鶏は全国を対象に実施し、ブロイラー及び肉用あひるは疫学関連農場及び10kmの防疫区域内の農場のうち希望農場*を対象に買取

*出荷日齢を満たし（商品性）、と殺前の出荷検査の結果が陰性の場合に買取

○買取対象及び条件の改善点

区分	現行	改善
畜種	地鶏（77日齢以上、導入及び飼育期間限定、3千羽以上飼養）	地鶏（70日齢以上以外の制限なし）、ブロイラー、肉用あひるも含む
買取農場	鶏肉の流通が禁止された地鶏飼育農場	地鶏の飼育農場及びその関連会社（ただし、関連会社は、独自の買取を実施）
系列会社支援	-	独自買取時の急冷は非支援

(推進日程) 3月6日までに買取事業対象農場及び需要調査を実施

○3月6日に需要調査が完了する前でも、希望農場*に対しては、すぐ買取措置

*3月6日現在、京畿道高陽市1農場地鶏25千羽